



New Year

新春

2024



きょうちくとう

夾竹桃



Zikei Hospital PR Magazine
"OLEANDER"

2024年 新年のご挨拶

慈圭精神医学セミナーの報告

慈圭病院メンタルヘルス講座

精神科のお薬について 吸収・代謝・排泄

中学生・高校生の通院医療費が1割負担です!!

ZIKEI NEWS ●第63回中国・四国精神神経学会

第46回中国・四国精神保健学会

シリーズ【作業療法】第1回『作業療法とは』



2024年

新年のご挨拶



院長 武田 俊彦

2024年が始まりました。2019年から続いた新型コロナウイルス感染症は、世間ではなんとなくウヤムヤのうちに背景化しつつあります。人だかりの中でもノーマスクの人がなんと多いことでしょう。世の中はポストコロナ気分かなり染まってきました。医療の分野においてもウイルスとの熾烈な戦争状態の時期は終わりました。そして今は、感染のくすぶりといくつかの置き土産が残っています。

置き土産の一つは、罹患後症状という後遺症の問題です。この後遺症は、コロナ感染症と診断されて12ヶ月経った時点でも約30%の人に認められ、症状としては、倦怠感、呼吸困難、筋力低下、集中力低下、睡眠障害、記憶障害、筋肉痛、関節痛など多岐にわたります。もともと精神科に関する症状が少なくないのですが、これらの後遺症のために生活の質が低下して、二次的に適応障害や気分障害のような精神科の疾患を引き起こす方もいらっしゃいます。

もう一つ置き土産として申し上げておきたいのが感染対策の後始末の問題です。病院は基本的に面会など外部の方々の訪問を禁止して、病院全体が閉じこもる体制をとってきました。学校や企業も同様の対策を厳しく行った時期もありましたが、今や感染リスクよりも閉じこもりのリスクの方が重大との立場で、昨年早々に開放化にむかいました。新型コロナウイルスが強い感染力を持つこと、重症化リスクのある高齢の方や身体合併症のある患者さまには未だ感染は

脅威であることなどを考慮しますと、病院は今もって閉じこもりの全面解消に踏み出しきれないところがあります。一方で、自由に人に会い、社会に出て五感で本物を実感する、これによって言語化できない多くの大切なものが得られることは疑う余地がありません。こころに対応する精神科医療ではなおさらでしょう。すでに慈圭病院は脱閉じこもりに向けて動き出していますが、病院を利用される全ての皆さまの病院内外への移動が気持ちよく流れるためには、今後も工夫し続ける必要があります。

日本国憲法の第十二条には、「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない」と書かれています。これは、憲法における民主主義の自由や権利は、ひとたび民主主義国家になったからといって安心して無関心していると知らぬ間に失われてしまう危険性がある、だから私たちはそれらを守るために日々努力することが必要であると述べています。これは私たち国民への警告でもあります。あぐらをかいてその状態にあることを当たり前と思うのではなく、常にその状態の理想を目指して努力し続けることが求められています。病院における医療や倫理も同様で、利用される皆さまの事情、こころの世界を含めた社会の動静、病院の状況をよく見極め、吟味して、理想を目指して改善し続けることで初めてより良いサービスが提供できると考えます。感染対策を含め、今後も慈圭病院は改善を続けます。

今後も慈圭病院は改善を続けます

慈圭精神医学セミナーの報告

慈圭会精神医学研究所所長 青木 省三

慈圭病院と精神医学研究所では、質の良い精神科の治療や支援のために、精神科医療従事者を対象にした講演会、慈圭精神医学セミナーを開催しています。治療や支援の実践には新しい知識や考え方を学んでいくことが大切です。とはいうものの、むしろ新しいことを受け入れる柔軟さが、知識以上に大切なのかもしれません。また、集まってディスカッションすることはそれ以上に意義があるのかもしれません。そのための勉強会が慈圭精神医学セミナーです。2019年には、第1回として高橋脩先生（社会福祉法人 豊田市福祉事業団理事長）に、第2回は村瀬嘉代子先生（一般財団法人 日本心理研修センター理事長）をお願いし、とても有意義な会となりました。その後、コロナ感染症拡大で開催できなかったのですが、昨年10月から再開しています。

第3回

慈圭精神医学セミナー 2023年10月

精神科病院の臨床について 考えてきたこと

『こころのうぶ毛』を守る

講師：田中 究 先生
兵庫県立
ひょうごこころの医療センター院長

田中究先生は、子どもから大人そしてご高齢の方々まで、幅広く診られる高名な精神科医です。講演タイトルにある「こころのうぶ毛」というのは、統合失調症の患者さまが持たれている、「繊細さ、やさしさ、人への敏感さ」のことで、田中先生の師でもある中井久夫先生（神戸大学名誉教授）が名付けられたものです。

田中先生は、長期の入院となっている方の回復を妨げるものの一つに、「こころの傷つき」（トラウマ）がある可能性について話されました。同僚との地道で粘り強い取り組みによって、地域で生活できるようになった事例を紹介され、とても励まされました。さらに、こころの病を持つ方は、何らかの傷つきを持っている人ではないかと考え、丁寧かつ配慮した接し方が大切になることを話されました。それが「こころのうぶ毛」を守る治療や支援であるということでした。

第4回

慈圭精神医学セミナー 2023年11月

自閉スペクトラム症の 診療と支援 選好性と過剰適応に留意した 配慮のあり方

講師：本田秀夫 先生
信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室教授

本田秀夫先生は、発達障害のある子どもの臨床に携わっておられる、わが国を代表する児童精神科医です。「自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える『生きづらさ』の正体」などの著書があり、NHKの「プロフェッショナル・仕事の流儀」で「精神科医・本田秀夫」として紹介された先生でもあります。

本田先生は、自閉スペクトラム症の人が、何が好きで何が得意かということに注目し、健康でハッピーな生き方とは、「プライベートタイムを最優先する」「やりたいことから順にやる」「やるべきだが気が進まないことは、余った時間にする」などであり、「自分のやりたいことや都合を過剰に我慢して、周囲に合わせることを無理にがんばりすぎる」とあとで極度に疲れてしまうことなどを話されました。自閉スペクトラム症の子どもや大人が、自分自身を肯定し、のびのびと生きていくためのヒントをたくさんいただきました。

慈圭病院メンタルヘルス講座

2023年10月7日開催

精神科のお薬について 吸収・代謝・排泄



講師
武田 俊彦
院長

精神科では日常の臨床場面で色々な薬剤を処方します。特に、中枢神経に作用して「精神症状」に効果を示す薬剤を「向精神薬」と言い、精神科ではこの向精神薬を中心に処方が行われています。向精神薬の中には、抗精神病薬、抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、気分安定薬などたくさん種類があります。今回は、この向精神薬を中心に、お薬が口から飲み込まれた後、どのように体を巡って、その後分解されていくかについてお話しします。

向精神薬を口から飲み込むと、胃から小腸に運ばれる間に、どんなに少ない量でもほぼ100%吸収されます。**吸収**とは、それら消化管の粘膜に行き渡っている血管内を流れる血液中に薬物が移行することです。血液に入った薬剤は、血液中のタンパク質と大部分が結合し、結合することによって薬物としての効果を失います。結合の割合の多い向精神薬では、その99.8%が結合して残った0.2%が薬物として生き残ります。消化管からの血管は全て肝臓に至ります。ですから、消化管から吸

収された薬剤も栄養素も一度全て肝臓に集められます。薬剤はここで一部が分解されてしまいます。

タンパク質との結合や肝臓での分解で、服薬した向精神薬の大部分が薬剤から脱落してしまい、ごくわずかな無傷の薬剤が肝臓から血流に乗って全身へ循環し、その一部は脳の血管にも至ります。薬剤は非常に小さな粒ですから、臓器に至ると血管壁の隙間から組織内に漏れ出て効果を示すのですが、脳組織はちょっと特殊です。脳の血管壁の細胞は隙間なく互いがぴったりくっつくことで異物の混入を強力に防いでいます。これを「血液脳関門」と言い、脳の防護システムの一つです。さらに脳組織はバターの塊のような脂質に富む組織なので、水に溶けやすい物質は入りにくい特質があります。従って、脳内で作用する向精神薬は、粒が小さくて、油に溶けやすく水に溶けにくい特性であることが必要です。色々な関門を通り抜けて、脳組織まで向精神薬を送り届けるのは結構大変なことです。



脳組織内で向精神薬は作用します。では、薬を飲み続けるとどんどん体内、脳内に薬が溜まっていくのでしょうか。いいえ、そうはなりません。実は薬は、腸管から吸収されて肝臓に至った瞬間から分解され、対外への排泄の過程が始まっています。この肝臓での分解の過程を**代謝**と言います。肝臓から全身を回った薬剤も再び肝臓を通るときに代謝され体外への排泄の過程に入ります。血液中でタンパク質と結合した薬物も肝臓で代謝されて排泄の過程に回されます。一度脳などの組織に入った薬剤は、どうなるのでしょうか。薬剤は濃度が濃いところから薄いところへ移行する性質があるので、肝臓で向精神薬が代謝されて血中濃度が薄くなると、脳内組織からその周辺の血管中の血液に移行して肝臓に送られます。このように向精神薬は服薬によって血中濃度が上がると脳組織に移行して作用を及ぼし、次の服薬までの間のほとんどの時間は代謝によって次第に濃度が下がって作用が弱くなっていくという過程を繰り返して

いるのです。服薬のタイミングは、薬剤によって、あるいは病状によって個別に決める必要がありますので、主治医にご相談ください。

最後に、体からの**排泄**です。向精神薬は主に尿から排泄されます。もともと向精神薬は水に溶けにくい薬剤なので、そのままでは尿に溶け出すことはありません。肝臓で代謝を受ける過程で、薬物としての効果が失われるだけでなく、水に溶けやすい分子に化学的に変形されて、腎臓から尿に溶け出す形で体外に排泄されます。

一定量の薬剤を定期的に服用すると、吸収量と代謝量と排泄量のバランスがとれ、脳内の薬物量が一定に保たれて、安定した薬物効果が得られます。向精神薬は、服用をやめると代謝によっておそかれはやかれ体から全て排泄されてしまいます。体って本当によくできていますね。薬もその体のメカニズムを上手に利用する形で作られています。

岡山市

中学生・高校生の通院医療費が 1割負担です!!

令和6年1月1日から
中学生・高校生の通院医療費が1割負担になりました。

対象者

岡山市に住民票がある中学生および高校生等

- 在学の有無に関わらず18歳に達した日以後の最初の3月31日までの方
- 生活保護を受給されている方は対象外

助成 内容

助成後の自己負担額

	通院	入院
中学生	1割*	無料
高校生等	1割*	無料

*中学生および高校生等の通院医療費の
月額上限額は、44,400円です。

受給 資格証

申請不要で、岡山市から送付されます。
受診時は、当院窓口に健康保険証と資格証をご提示ください。

特定医療と福祉医療を併用する場合に限り、中学生・高校生等の
外来医療費も無料化

特定医療の受給資格証

自立支援医療（精神）*
特定医療費（指定難病）
自立支援医療（育成）
自立支援医療（更生）
小児慢性特定疾病



福祉医療の受給資格証

子ども医療
心身障害者医療
ひとり親家庭等医療

*自立支援医療（精神）の手続きには、医師の診断書が必要です。
詳しくは、西館1階医療福祉相談窓口（生活福祉支援課）
または、受付窓口までお声かけください。

注意 事項

中学生および高校生等が指定医療機関で、小児慢性特定疾病・自立支援医療（育成医療・更生医療・精神通院医療）・指定難病の治療を受ける場合は、認定を受けている疾病の治療に限り、通院医療費の自己負担額が無料になります。



第63回中国・四国精神神経学会 第46回中国・四国精神保健学会

2023年11月10日(金)、11日(土)の2日間にわたり、岡山市内において第63回中国・四国精神神経学会 第46回中国・四国精神保健学会が開催されました。慈圭病院からもたくさんのスタッフが参加しました。学会のテーマは「中四国の精神神経医療～多様性そして繋がる～」です。発表では多職種の工夫された取り組みや、新鮮な内容を聞くことができました。活発な意見交換、質問もあり緊張感と活気ある会場となっていました。特別講演、シンポジウムもあり今後のより良い精神医療に繋がる学びの場となりました。



シリーズ【作業療法】第1回

『作業療法とは』

精神科治療の3本柱は、

「精神療法」・「薬物療法」・「作業療法」

作業療法(occupational therapy: OT)とは病気によって社会生活に支障を生じた方が「したい」と思っていることや「生活に必要と思っていること」などを作業療法士と一緒に考え、作業活動を用いて精神や身体機能の向上・対人技能・作業能力の改善などをはかり、自身の健康を回復増進させ「本人が希望するより良い生活」を送るために行われるリハビリテーションです。

一般的に精神科の「治療」という言葉からはお薬を飲むことや医師との話し合いなどをイメージされることが多いかもしれませんが、作業療法で行われる日常生活の練習や本人をとりまく人や状況の調整など「日々

の生活そのものを整えること」も大切な治療の一つです。

最近の精神科治療は、地域の中で社会資源を使いながらの治療が多く、10代から100歳を超えるいろいろな年代の方が受診されており、生活や考え方・価値観の多様化も進んでいます。それに伴い、一人ひとりの生活(価値観)に合わせた作業療法の提供が必要となつてきています。

以前は精神科病院やクリニックでの入院作業療法や精神科デイケアでの支援が中心でしたが、最近では外来通院の方を対象とした外来作業療法や自宅への訪問作業療法、現場での職場復帰のための作業療法など、病

院以外で作業療法士が支援する場所が広がっています。

当院でも様々な場所で作業療法を提供しています。治療の際にお困りのことがありましたらご相談ください。

(作業療法士…妹尾洋明)



外来担当医師

完全予約制

令和6年1月1日現在

診療時間

9:00～15:00

初診／受付時間

8:30～11:00

専門外来

●アルコール
●禁煙●もの忘れ
●セカンドオピニオン

●青年期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
再診	堀井 茂男 岡田 志保 城戸 高志	石津 秀樹 難波 多鶴子 武田 俊彦 渡部 一予 池田 智香子 青木 省三	堀井 茂男 山内 裕子 的場 翔也	武田 俊彦 石津 秀樹 安田 華枝	岡 沢郎 鷲田 健二 蜂谷 知彦 山下 理英子	定期の診察はありません
専門外来	午前 (アルコール初診) 山下 理英子	(アルコール初診) 担当医				
	午後	(アルコール再診) 堀井 茂男 (禁煙) 山下 理英子	(もの忘れ) 石津 秀樹	(青年期) 担当医	(アルコール再診) 堀井 茂男 山下 理英子	

慈圭病院の理念

わが子でも安心して任すことのできる
精神科病院

創立以来、職員ひとりひとりが、患者さまとご家族の信頼にたる病院であることを問い続けています。

五大基本原則

- 1 慈愛の医療**
ひとりひとりの患者さまに、慈愛と尊敬のこころをもって快適な医療を提供します。
- 2 最先端の精神科医療**
急性期医療からリハビリテーション、地域医療まで、良質で、最先端の精神科医療を実践します。
- 3 最高水準の医療倫理**
ヒューマニズムに根ざした至高の医療倫理を保ち、安全で安心、納得のいく医療を実行します。
- 4 積極的な地域貢献**
地域との連携を密接にし、精神科基幹病院としての役割をはたすとともに、こころの病の理解のための教育、啓発活動を積極的に行います。
- 5 チャレンジ精神**
私たち病院スタッフは、常にチャレンジ精神を忘れず、和の力を結集し、さらなる挑戦、実践を行います。

病院へのアクセス

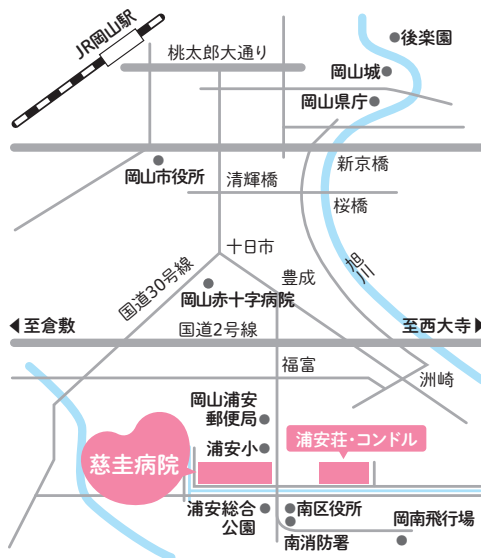
JR岡山駅より南へ約8km(浦安総合公園近く)

🚗 車で

広島方面から……国道2号線「青江」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分
大阪方面から……国道2号線「福富」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分

🚌 バスで

岡電バス……JR岡山駅前より「浦安体育館・岡南飛行場行」に乗車、「慈圭病院」下車(岡山駅より約30分)



お問い合わせ

☎ (086) 262-1191 受付時間 8:30～17:30

24
時間

精神科救急対応

時間外・休日の急患対応いたします

ホームページもご覧ください <https://www.zikei.or.jp/>